

序 文

名古屋大学は、世界を代表するものづくり産業の集積地に位置する研究中心の総合大学として、先導的な研究を実施し、工学部・工学研究科は我が国及び世界の技術・工学の発展および産業界・学术界で活躍する人材育成に貢献してきました。資源のない日本では、イノベーションを牽引する人材が必要で、特に工学の研究者・技術者への期待はますます高まっています。このような中で、ものづくりの実践教育への技術支援組織の果たす役割はますます非常に重要になっています。

名古屋大学では平成 16 年度の法人化に際して、技術支援業務の組織的な運営などを目指して、全学技術センターとして技術職員組織の全学一元化を行い、工学研究科・工学部でも全学技術センター工学系技術支援室に対応する組織として、工学研究科・工学部技術部を設置しました。この技術部は情報通信技術系、環境安全技術系、装置開発技術系、分析・物質技術系の 4 つの技術系からなり、工学部・工学研究科の基盤を支える多岐にわたる技術を担うとともに、部局内の教員との強い連携のもとに教育と研究の支援業務にも精力的に取り組んでいます。特に実験装置開発等に関しては、学生を直接指導して、ものづくり現場での生きた教育を担っています。さらに各種研修会や学会への積極的な参加、ものづくり公開講座の実施などの活動も行っています。

この「技報」は、平成 27 年度における工学研究科・工学部技術部に所属する技術職員が教育研究支援業務を通して得た成果や技術力向上を目指した研修活動によって得た成果をまとめた報告書です。ご一読いただき、ご意見等をお寄せいただければ幸甚に存じます。技術部では、今後もこれら教育研究の支援活動や社会貢献活動に積極的に取り組み、体得した技術のさらなるレベルアップと新技術への果敢な挑戦を続けてまいります。皆様方におかれましては、今後も技術部へのご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

工学研究科長・工学部長 新美智秀